

## (西暦) 2019年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名 (注: 学位論文題名が英語の場合は和訳をつけること)

臓器提供の意思表示に関する実態と関連要因の検討

学位の種類: 修士 (看護学)

首都大学東京大学院

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 看護科学域

学修番号 18894708

氏名: 水落 彩香

(指導教員名: 習田 明裕 教授)

研究の背景: 日本における脳死下臓器提供は、1997年の「臓器移植に関する法律」の施行により可能になった。しかし、先進国に比べていまだに自国内での臓器提供数は少なく、心臓移植待機患者の約40%が移植できずに死亡している現状にある。現在も一縷の望みをかけ、海外渡航移植を行う人は少なくないが、2008年にイスタンブール宣言が出され、臓器売買、移植ツーリズムの禁止、自国での臓器移植医療が推進された。この宣言を受け日本でも法律改正が行われ、本人の提供意思が不明な場合は、近親者の承諾で提供が行えるという“拡大された”オプト・イン方式を採用し、臓器提供数は増加した。実際その多くが、脳死ドナーとなった本人の意思が分からずに、家族の判断で行われている。しかし、こうした近い人が脳死状態となる時は唐突に訪れることが多く、本人の意思が不明のまま家族に代理意思決定を求める際の家族の苦悩、心的負担は図り知れないと考える。臓器移植医療の是非については様々な考え方があって然るべきだが、脳死臓器提供の意思表示を行うことは本人の意思を尊重すること、さらには家族の心的負担を少しでも軽減するという点から、極めて重要であると考えた。

目的: 臓器提供意思表示に関する実態と関連要因を検討し、明らかにすることである。

方法: 自動車教習所に通所し、運転免許証の取得を目的としている利用者を対象に全53問の無記名自己記入式質問紙調査を行った。収集したデータを、本研究の概念枠組みに基づいて分析を行った。分析は、各設問の基本統計量の記述統計の算出、【臓器提供の意思表示】を従属変数とした単変量解析、【臓器提供の意思表示】の関連項目の因子分析、【臓器提供の意思表示】の関連要因の検討の順で行った。

結果: 3施設に配布し、228人(回収率87.7%)から回答が得られ、設問の半数が未回答の1部を無効回答として227人(有効回答率99.6%)を分析対象とした。臓器提供の意思表示の方法は、78.9%の人が既知であったが、実際に意思表示を記入している人は11.6%であった。しかし、運転免許証を今後取得し臓器提供の意思表示ができる媒体を保有した時は60.4%の人が意思表示をすると回答していた。【臓器提供の意思表示】を従属変数、『個人属性』、『意思表示に対する考え方』、『臓器移植医療に対する考え方』、『医療

に対する信頼性』、『脳死に対する考え方』、『死生観』のカテゴリーの各設問を独立変数として単変量解析を行ったところ、3つのカテゴリーで関連が見られた。関連が見られた項目と仮説をもとに探索的因子分析を行ったところ《臓器移植医療に対する肯定的態度》、《臓器移植医療に対する積極的関心》、《意思を表明することへの不安》の3因子が抽出された。これら3因子と質的データのため因子分析に投入されなかったが有意な関連が見られた「周囲に臓器提供の意思表示をしている人はいるか」の変数を加えた4個の変数を説明変数としカテゴリカル回帰分析を行った。その結果、分散の30.5%が説明され、《臓器移植医療に対する積極的関心》( $\beta = .247, p < .001$ )、《意思を表明することへの不安》( $\beta = -.414, p < .001$ )、「周囲に臓器提供の意思表示をしている人はいるか」( $\beta = .171, p < .01$ )と関連が見られた。なお、《臓器移植医療に対する肯定的態度》( $\beta = .114, n.s.$ )のみ関連が見られなかった。

考察：本研究の対象者の78.9%の人が臓器提供の意思表示の方法を知っているにも関わらず、そのうちの約70%の人が自らの意思を表明していないということが分かった。【臓器提供の意思表示】と《臓器移植医療に対する肯定的態度》の因子に関連が見られなかったことは、臓器提供の意思表示には臓器移植医療をひとつの医療として受容することが、臓器提供の意思表示を考えるきっかけにはなるが、その態度自体が「意思表示をする」という行動に影響する要因であるとは言えないことが示された。一方、自らの意思を考える機会を設け、一人ではなく自分の身近な人と共に考える時間をつくることが意思表示と関連することが示された。運転免許証の取得は臓器提供の意思表示について考える契機となり、“臓器提供したい、もしくはしたくない”という意識が、“臓器提供の意思表示をする”という行動へ移せるきっかけになることが示唆された。